

第 31 回管理栄養士国家試験

1 栄養ケア・マネジメント

2017-84 栄養スクリーニングに求められる要件である。誤っているのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 簡便である。
- (2) 妥当性が高い。
- (3) 信頼性が高い。
- (4) 侵襲性が高い。
- (5) 敏感度が高い。

2017-85 栄養アセスメントに用いる血液検査項目と病態の組合せである。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) クレアチニン-----糖代謝異常
- (2) HbA1c -----脂質代謝異常
- (3) アルブミン-----低栄養
- (4) 総コレステロール-----貧血
- (5) ヘマトクリット-----骨塩量低下

2 食事摂取基準の基礎的理解

2017-86 日本人の食事摂取基準（2015 年版）における、目標とする BMI (kg/ m²) の範囲（18 歳以上）に関する記述である。正しいのはどれか。2 つ選べ。

- (1) 男女別に設定された。
- (2) 総死亡率との関連を踏まえ、設定された。
- (3) 4 つの年齢区分で、設定された。
- (4) 70 歳以上では、虚弱と生活習慣病の予防について考慮された。
- (5) 日本人の BMI の分布は考慮されていない。

3 成長・発達・加齢

2017-87 スキャモンの発育曲線の型とその特徴の組合せである。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 一般型-----乳児期より学童期に急激に増加する。
- (2) 神経型-----他の型より早く増加する。
- (3) 生殖器型-----出生直後から急激に増加する。
- (4) リンパ型-----思春期以降に急激に増加する。
- (5) リンパ型-----20 歳頃に最大値となる。

4 妊娠期、授乳期

2017-88 母乳に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 吸啜刺激は、オキシトシンの分泌を低下させる。
- (2) 吸啜刺激は、プロラクチンの分泌を増加させる。
- (3) 分泌型 IgA 量は、初乳より成熟乳に多い。
- (4) たんぱく質量は、牛乳より母乳に多い。
- (5) 多価不飽和脂肪酸量は、牛乳より母乳に少ない。

2017-89 妊産婦の身体と食生活・生活習慣に関する記述である。誤っているのはどれか。1

つ選べ。

- (1) 妊娠前からの健康的なからだづくりを推奨する。
- (2) 非妊娠時に BMI18.5 kg/ m² 未満であった妊婦の推奨体重増加量は、7 kg 未満である。
- (3) 主食を中心にエネルギーを摂る。
- (4) 多様な食品を組み合わせることでカルシウムを摂る。
- (5) 妊婦の喫煙は、低出生体重児のリスクとなる。

5 新生児期，乳児期

2017-90 離乳の進め方に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 離乳の開始は、生後 2、3 か月頃が適当である。
- (2) 離乳食を 1 日 3 回にするのは、離乳開始後 1 か月頃である。
- (3) 舌でつぶせる固さのものを与えるのは、生後 7、8 か月頃である。
- (4) フォローアップミルクは、育児用ミルクの代替品として用いる。
- (5) 哺乳反射の減弱は、離乳完了の目安となる。

2017-91 K 保育所に勤務する管理栄養士である。入所児の Aさんは、生後 12 か月、男児。身長と体重は身体発育曲線に沿って成長している。最近、食事について興味を持ち、自分で食べたがるようになった。Aさんの食事に関する保護者への助言である。最も適切なのはどれか。1 つ選べ。

- (1) スプーンの利用を推奨する。
- (2) 手づかみ食べのできる食事を推奨する。
- (3) こぼさない食べ方を推奨する。
- (4) 子どもだけを先に食べさせるように推奨する。

6 成長期

6-1 幼児期

2017-92 幼児期（3～5 歳）の生理的特徴に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 頭囲は、胸囲より大きい。
- (2) 体重 1 kg 当たりのエネルギー必要量は、成人と同程度である。
- (3) 1 年間当たりの体重増加率は、乳児期より高い。
- (4) 1 分間当たりの呼吸数は、乳児期より多い。
- (5) 咀嚼機能は、3 歳頃に獲得される。

6-2 学童期

2017-93 学童期のエネルギーと肥満に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 基礎代謝基準値（kcal/ kg 体重/ 日）は、幼児期より低い。
- (2) 推定エネルギー必要量は、基礎代謝量（kcal/ 日）と身体活動レベルの積である。
- (3) 原発性肥満より二次性肥満が多い。
- (4) 学童期の肥満は、成人期の肥満に移行しにくい。
- (5) 肥満傾向児の割合は、高学年より低学年で高い。

7 成人期

7-1 成人期

2017-94 日本人の食事摂取基準（2015 年版）において、成人期の目標量が設定されている

栄養素である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) 脂質（脂肪エネルギー比率）
- (2) 食物繊維
- (3) ナトリウム
- (4) カリウム
- (5) 鉄

8 高齢期

2017-95 K 介護保険施設に勤務する管理栄養士である。デイサービス利用者の食事指導を実施している。対象者は、76 歳、女性。身長 150 cm、体重 42 kg、BMI18.7 kg/m²。この 1 年間で体重が 2 kg 減少した。最近、歩行速度が遅くなり、疲労感が強くなった。この利用者に対して、食事バランスガイドを用いて普段の食生活をたずねた。特に留意すべき料理区分として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) 主食
- (2) 主菜
- (3) 副菜
- (4) 菓子・嗜好飲料

2017-96 K 介護保険施設に勤務する管理栄養士である。利用者は 80 歳、女性。身長 150 cm、体重 40 kg、BMI17.8 kg/m²。食事は自立しているが、普通食ではむせることがあり、主食は全粥としている。この利用者の副菜として、最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- (1) もずくの酢の物
- (2) 刻んだきゅうりの漬物
- (3) やわらかく煮ただいこん
- (4) 小松菜ともやしの和え物

9 運動・スポーツと栄養

2017-97 スポーツ選手の栄養に関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) 持久型種目の選手では、炭水化物摂取が重要である。
- (2) 筋肉や骨づくりには、たんぱく質摂取が重要である。
- (3) スポーツ貧血の予防には、ビタミン A 摂取が重要である。
- (4) 運動後の疲労回復には、早いタイミングでの栄養補給が重要である。
- (5) 熱中症予防では、運動中の水分と電解質の補給が重要である。

10 環境と栄養

2017-98 汎（全身）適応症候群に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 警告反応期のショック相では、血糖値が上昇する。
- (2) 警告反応期のショック相では、血圧が上昇する。
- (3) 警告反応期の反ショック相では、生体防御機能が低下する。
- (4) 抵抗期では、新たなストレスに対する抵抗力は弱くなる。
- (5) 疲はい期では、ストレスに対して生体が適応力を獲得している。

2017-99 低温環境に曝露されたときに起こる身体変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) ふるえによる産熱は、減少する。

- (2) 基礎代謝量は、減少する。
- (3) 血圧は、低下する。
- (4) 皮膚血流量は、増加する。
- (5) アドレナリンの分泌は、増加する。

解答

- 1 栄養ケア・マネジメント
2017-84: (4), 2017-85: (3)
- 2 食事摂取基準の基礎的理解
2017-86: (2), (4)
- 3 成長・発達・加齢
2017-87: (2)
- 4 妊娠期, 授乳期
2017-88: (2), 2017-89: (2)
- 5 新生児期, 乳児期
2017-90: (3), 2017-91: (2)
- 6-1 幼児期
2017-92: (5)
- 6-2 学童期
2017-93: (1)
- 7-1 成人期
2017-94: (5)
- 8 高齢期
2017-95: (2), 2017-96: (3)
- 9 運動・スポーツと栄養
2017-97: (3)
- 10 環境と栄養
2017-98: (4), 2017-99: (5)